

一般社団法人

千葉県言語聴覚士会ニュース



NO. 47 2015年3月22日

目次

総会のお知らせ	1	ひとくちコラム	8
学術局から	2	匠の技	9
理事会から	5	各委員会・作業部会から	11
施設紹介	6	事務局から	14
臨床こぼれ話	7	理事会・委員会等議事録	16

☆☆ 一般社団法人千葉県言語聴覚士会 ☆☆

☆☆ 第4回総会のお知らせ ☆☆

今回は、千葉市民会館で行います!!

一般社団法人千葉県言語聴覚士会第4回総会・平成27年度第1回研修会を5月24日（日）に開催いたします。

法人格を取得して4年目となります。引き続き、言語聴覚士に対する一般市民への啓発を図るとともに、職能部を中心に、職能団体として会員のニーズにあった活動をさらに充実させていくことも必要です。総会は今後の方向性を決める重要な場ですので、会員の皆様にはご出席いただきますよう、お願いいたします。

総会後には第1回研修会を開催します。今回は、「聴覚障害」をテーマに、千葉県こども病院耳鼻咽喉科部長の仲野敦子先生にご講義を頂きます。小児から高齢者までの聴覚障害について、最新知見や臨床にいかせる貴重なお話を伺うことができる機会です。皆様お誘い合わせの上ご参加くださいますよう併せてお願いいたします。

日時：平成27年5月24日（日）

13:00～14:00 一般社団法人千葉県言語聴覚士会第4回総会

14:15～15:45 平成27年度 第1回研修会

16:00～16:50 懇親会

場所：千葉市民会館 3階 特別会議室2

◇ 学術局から ◇

学術局 木村 佐知子、酒井 譲

1. 平成27年度第1回研修会のお知らせ

新しい年度の第1回目は「聴覚障害」をテーマといたしました。今回は、千葉県こども病院耳鼻咽喉科部長の仲野敦子先生をお招き致し、小児から高齢者までの、幅広い聴覚障害についてご講義頂きます。聴覚障害を新たに学びなおす場として是非ご参加下さい。

講演会後には、新入会員の皆様と、日頃の臨床に関する情報交換はもちろん千葉県地域に勤務するSTのネットワーク作りを兼ねて懇親会を開催いたします。どうぞお気軽にご参加下さい。会員、会員外の方もお待ちしております。是非お申し込み下さい。

*日時：平成27年5月24日（日） 14：15～16：50

*会場：千葉市民会館 3階 特別会議室
注）例年と会場が変更となっております。

*定員：100名

*参加費：正会員・準会員 無料
会員外2000円、学生およびPT・OT県士会員500円

*内容

I. 講演 [14：15～15：45]

講師：千葉県こども病院 耳鼻咽喉科
部長 仲野 敦子 先生

講演：今日から臨床で使える
「小児から高齢者までの聴覚障害について」
～最新知見と言語聴覚士に求められること～

II. 懇親会 [16：00～16：50]

* 申し込み方法：詳しくは同封の申込書をご覧ください。

2. 第3回研修会報告

平成27年1月18日（日）に順天堂大学医学部附属浦安病院で第3回研修会を開催しました。今回は、千葉市療育センター療育相談所の斉藤公人先生をお招きして、ご講演と症例検討会でのご助言をいただきました。また、症例発表として旭中央病院の金屋麻衣先生、宇井円先生にご発表いただきました。参加者は31名（会員26名、会員外5名）でした。研修会の概要と、アンケート結果の一部をご紹介します。

研修会の概要

演題：「双胎の表出性言語発達遅滞の訓練経過について—各児の比較検討を通じて—」

発表者：旭中央病院 宇井 円 先生
金屋 麻衣 先生

概要：表出性の言語発達遅滞を認める双胎児に、文字を活用した訓練及びAACの活用や家庭療育への助言を行った結果、単語の獲得から会話が可能になった症例について、初診時の3歳7カ月から約3年間、月2回の訓練経過を、発信の変化に合わせ三期に分けて報告がありました。兄弟合同で訓練を行い、

身振り発信や音声模倣の拡大を目指し、生活場面への般化も促した第一期、文字を媒介に音韻記憶の弱さを視覚的手がかりによって補うことで音声発信が拡大した第二期、絵記号や文字を使用しての文構成などで文レベルの音声発信の拡大を促した第三期を訓練プログラムの表にまとめ、実際の訓練場面の動画を交えて説明していただきました。音声言語でのコミュニケーションが図れるまでに至る経過と、自らの音声表出能力に自信を持ち、表出が活発になって行った経過がわかりやすくまとめられていました。

講演：「P E C Sについて」

発表者：千葉療育センター 療育相談所 斉藤 公人 先生

概要：P E C S（絵カード交換式システム）についてご講演いただきました。P E C SとはPicture Communication Systemの略で自閉症スペクトラムなどのコミュニケーション障害に対して、自発的なコミュニケーションスキルの習得をさせる技法であり、小児から成人まで使用可能との事でした。まずP E C Sの特徴や段階について、目標、手続き、留意点をご説明いただきました。段階はフェイズⅠ～Ⅳまであり、フェイズⅠは好きなものをカードで交換する段階、フェイズⅡは自発性を高める段階（カードの位置を離しても取りに行けるなど）フェイズⅢはカードを選択する段階（2枚以上のカードから選んで渡す）、フェイズⅣは「○○ください」と文章カードに貼って渡す段階との事でした。次にP E C Sを使用した訓練経過について症例を交えてご説明いただきました。最後に音声のみにこだわらず、視覚支援を利用するなど自発的なコミュニケーションを図れる手段を検討し、その子と分かり合える手段でやり取りをしていく事が重要であり、その方法を見つけていくのがS Tの醍醐味であるにご講演いただきました。講演終了後には活発な意見交換が行われ、有意義な研修会となりました。

アンケート結果

①症例報告について（回収：15名）

とても良かった：11名、普通：4名

とても良かった 具体的に：

- ・とてもわかりやすく、自分の担当ケースに生かせる点がたくさんあった。特に文字の導入から表出を促していくという方法が参考になった。記号的なものが入りやすいケースには有効と思う。
- ・継続的に評価・訓練経過をまとめて下さり訓練も具体的な呈示があったので参考になった。
- ・成人、小児の同時開催がよい。

普通 具体的に：

- ・プログラムを作って全体をながめているところがよかった。

②講演について（回収15名）

とても良かった：12名 普通：2名 未記入：1名

とても良かった 具体的に：

- ・P E C Sは名前しか知らなかった→今回知ってよかった、もっと深く知りたい、研修会に行ってみようと思う。音声にとらわれず、わかりあうことを求めることのすばらしさ、可能性を実感した。自分の担当ケースに生かしたい。〃相手があつてのこと〃=S Tの醍醐味→心にしました。
- ・P E C Sについて症例を含めてみることでよかった。
- ・的確なアドバイスをお聞かせいただいた上、具体的な指導法もお教えいただきとても参考になった。もう少し助言をお聞きしたかった。

・VTRやデモンストレーションがあり、とても丁寧でわかりやすかった。

普通 具体的に：

・手続きの方法をしっかりと理解していかないと他の目的になってしまうのが難しいと思った。

③情報交換会について。

(回収数：15名)不参加：10名、参加：3名

とてもよかった：2名、普通：0名、期待していた内容と異なった：0名、未記入：1名

2. 今後の研修会や当会の活動のため、ご意見等をお願いいたします。

①形式；講演：7名、症例発表：9名、シンポジウム：1名、グループワーク演習：2名

相談会：2名、領域ごとの研修会：4名、その他：0名

具体的に：

・千葉で行われている勉強会の成果を県土会員にご紹介してはどうか。

②内容；失語症：0名、高次脳機能障害：2名、摂食・嚥下障害：3名、吃音：7名、

音声・構音障害：8名、言語発達障害：9名、聴覚障害：4名、認知症：2名

職場の悩み相談：1名、子育てとの両立について：2名、復職について：1名

接遇やマナー等：1名、その他：0名

具体的に：

・障害児を持つ保護者への心のサポート、カウンセリングについて

・接遇やマナーは生涯学習プログラム基礎講座で話題になりましたが、個人情報の扱いについて具体例を含めて学びたいです。

・業者のプレゼン企画がよかった。

3. 学術局より

[研修会を終えて]

研修会後の情報交換会では、斉藤先生を中心にご講演について、日々の臨床において等、活発な意見交換が行われました。また形式を変えたアンケートでは、具体的に皆様からのご要望を抽出でき、今後の研修会の運営に生かして参ります。ご参加いただきました皆様、ありがとうございました。皆様の臨床の一助になれますようお願いしております。

[研修会の症例発表者募集]

今年度の研修会での症例発表者を募集します。日頃の臨床で悩んでいる症例などありましたら、是非ご検討ください。皆様の積極的な提案をお待ちしています。当会ホームページにお問い合わせください。

4. 「地域の勉強会」での症例検討会に参加しませんか？

会員の皆様のご協力により、各地域で勉強会が開催されています。ホームページの「小児多職種合同勉強会」、「地域勉強会」をご参照の上ご参加ください。

◇ 理事会から ◇

●○○○ 特別支援学校の外部専門家活用事業について ○●○○●

今、特別支援学校では、共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育を推進しています。これは、地域の小・中学校等から求められる支援等を念頭に置いた上で、必要に応じて外部専門家の知見等を活用し、特別支援学校全体としての専門性を高めることを目的としています。

すでに特別支援学校等に外部専門家としてかかわっている会員もおられますが、県士会へも、千葉県内の他、東京都の特別支援学校等からも問い合わせが入ってきている状況です。

以下に、外部人材活用事業で外部専門家が入った学校の例を紹介します。

『外部人材として言語聴覚士に来ていただいて』

千葉県立千葉聾学校 宮下 恵子

千葉県立千葉聾学校は、聴覚に障害のある幼児児童生徒を対象とした特別支援学校です。「豊かな心・確かな学力をもち、たくましく生きる子どもの育成」を目指して、乳幼児教育相談・幼稚部での早期教育、小・中・高等部(専攻科)の一貫した教育内容や方法の充実を図っています。また、千葉県における聴覚障害教育のセンター的機能を担ってまいります。

聴覚管理及び聴覚活用、発音、言語指導等に関する専門性のレベルアップを図り、日々の指導・支援に活かしていくとともに、地域の小・中学校等からの求めに応じて聴覚に障害のある子ども達にさらに充実した指導・支援が提供できることを目指し、平成26年9月から外部専門家として言語聴覚士（以下ST）に来ていただいています。

今年度は、3月までのローテーションで、吉田会長をはじめ、千葉県聴覚障害教育ネットワーク推進連絡協議会(うさぎねっと)に参加している千葉県こども病院や小張総合病院のSTに17回来ていただきました。

STには、乳幼児や通級生への個別指導・支援場面や聴力測定場면을参観していただき、その内容や方法についてアドバイスをいただいたり、関係教員へのミニ研修会を開いていただいたりしています。今後は、得た知見を校内の教職員で共有し他の指導や場面でも活かしたり、地域の小・中学校等から求められる支援にも活かしたりしたいと考えています。





施 設 紹 介



医療法人社団緑友会 らいおんハートクリニック行徳駅前・・・・・・・・ST 日下 智子

当院は平成15年に市川市行徳に開院し、STは平成18年より勤務しています。平成25年5月より行徳駅前に移転し現在にいたります。

医療保険を用いた外来リハビリ、介護保険を中心とした訪問リハビリ、介護保険を用いた言語サービス、短時間デイケアの4つの形態で言語療法を提供しています。

外来リハビリ、短時間デイケアでは、回復期を経た比較的に若い方、外出が可能な難病の方の言語面、嚥下面のフォローを中心に行っています。送迎も実施しているので、麻痺がある方、介助者がおらずに外出できない方でも言語療法を受けることができます。

訪問リハビリでは、身体面が重度の方のみならず、STが周辺地域に居ない方にも訪問し言語療法を提供しています。また歯科医院とも連携を取り、VEを実施して頂き、その結果をもとに摂食嚥下療法を提供しています。

言語サービスは、様々な年齢、症状の方が利用しています。個別訓練での機能訓練のみならず、集団訓練では他者との関わりを通して、生きた言葉の訓練を実施しています。言語障害によって隠れている「その人らしさ」を取り戻せるように援助しています。

医療保険でも介護保険でも、麻痺があってもなくても、若くても高齢者でも、どんな方にも、言語療法を提供できる、生活期に根差したクリニックを、ST部門全員で協力して目指しています。

〒272-0133 市川市行徳駅前2-16-1 TEL: 047-306-7778

四街道市ことばの相談室・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ST 野口 文見

当市の言語聴覚業務をほんの少しご紹介させていただきます。

言語聴覚士は常勤2名、母子保健グループに所属しています。構成チームとしては非常勤を含め、助産師・保健師・栄養士・臨床心理士・保育士です。近隣専門医・病院所属の臨床心理士・保育園や幼稚園・障害者相談支援事業所や福祉サービス事業所等と共に、相談者の生活状況にあわせた支援を行うため、連携先は多岐に渡ります。取り組み業務は個別相談が主となりますが、保健分野の所属となるため母子手帳の発行等妊婦の時期から就学まで、ことばの相談を行うだけでなく、虐待予防、保護者の不安や負担に寄り添った環境調整等、家族支援も行っています。発達障害児は虐待のリスクが高くなるのが現状です。適切ではない養育環境は、育ちに影響を与えやすいため、ことばを含めた育ちの遅れをきっかけに虐待の早期支援を行うこともあります。

その他特別支援教育では、教育委員会との連携で生涯にわたり途切れのない支援を目指し関係機関と共に市の体制のひとつとして取り組んでいます。

行政に所属する私たち言語聴覚士は、決して子育てしやすいとは言えない現代社会において、「誰か助けて」と声を上げられずに地域で何とか頑張っている親子のサインをキャッチし、そっと手を伸ばすような関わり方を大切にしています。そして地域の中で再び笑顔になれるようなコミュニケーション支援を行うことが、次の世代の親子支援・地域の子育て支援に繋がるのではないかと信じ、日々その声に耳を傾け支援を模索しながら丁寧に関わり続けています。

臨床こぼれ話

★★★ 物事をいろいろな角度から考えることの大切さ ★★★

君津中央病院 リハビリテーション科

金子 義信

小児の言語訓練を中心に施設や病院で働いています。言語聴覚士になってから、まだ十数年で、こぼれるほどの臨床経験はないのですが、せっかくいただいた機会ですので、お子さんから学んだ経験をお伝えしたいと思います。

自閉症スペクトラムの K 君（現在小学校三年生）とのエピソードです。私が K 君と出会ったのは、K 君が 3 歳の時でした。粘膜下口蓋裂術後の声門破裂音に対する構音訓練をという依頼でお会いしました。紹介先からの報告書には構音障害の他にコミュニケーションのとりづらさもあると記載がありました。大人しくて、恐がりでなかなか口の中も見せてくれないお子さんでした。まだ年齢も低かったので、構音訓練よりも、楽しくやりとりをしようと思がけていたつもりでした。K 君も私の提示する課題には大人しく応じてくれていたので、楽しんでくれているのかなと思っていました。

しかし、数ヶ月たったある訓練場面で、K 君が突然「やだー」と大泣きしたのです。びっくりしました。その回、K 君は最後まで泣いていました。泣いた理由も「いやだ」と言った K 君の気持ちも私にはよくわかりませんでした。その次の回に会ったときにお母さんとお話ししてその理由がわかりました。K 君は毎回すごく緊張していて、自分の気持ちや思いを私に伝えることができなかったのです。コミュニケーションが苦手で、もともと表情が少ないのかなと思い込んでいました。気持ちを察してあげることのできなかった自分を反省しました。K 君は気持ちを出せてスッキリしたのか、大泣きした次の訓練から笑顔がみられ発話もぐんと増えました。やりとりもスムーズにできるようになり、構音訓練も進めることができました。今でもお母さんには「あの泣いた回で先生と仲良くなれましたね」と言われています。

K 君からは自閉症スペクトラムのお子さんの持つ独特な感性を学ぶことがたくさんあります。つい先日の出来事です。K 君は以前から朝の支度が遅く、時間ぎりぎりになって慌てて取り乱してしまうということがありました。数字が好きで視覚優位のお子さんですので、時計でスケジュール管理をしていたのですが、いっこうに変化がありませんでした。時計が読めないわけではありません。そこでお母さんがタイムタイマー（残り時間が色でわかる時計）を購入し試してみたのです。すると、自分の行動を時間通りに行うことができるようになったのです。以前からタイムタイマーは自閉症スペクトラムのお子さんには有効だと思っていましたが、「同じ時計やタイマーなのになぜ効果が違うのかな」と不思議に思っていました。後日、お母さんが「普通の時計とどう違うの？」と尋ねる機会があったそうです。K 君は「普通の時計は数字が増えていくから、残りの時間も増えていくように感じてしまうんだ」と答えたそうです。その答えに私ははっとしました。確かに時間が進むと数字は増えていきます。「残り何分」という視点に切り替えなければいけないのです。自分にとっては何でもないことが、ある特性や個性をもつ人にとっては全く違う意味を持つことを改めて感じました。また、自分なりの感じ方を言葉で表現できるようになった K 君の成長を頼もしく感じた瞬間でした。

三三三 きこえに関するひとくちコラム 三三三

・・・聴覚障害委員会・・・

難聴の原因と遺伝子診断

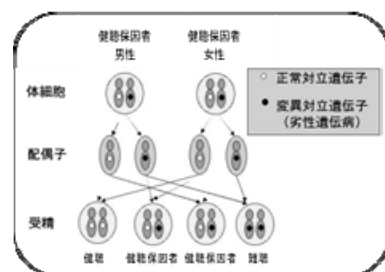
【難聴の原因】 出生１０００人に１人の割合で難聴児が生まれてくるとされていますが、現在、先天性難聴の原因の６０～７０％は遺伝性であることがわかっています。遺伝子以外の原因ではサイトメガロウイルス感染症による難聴が最も多く、約２０％程度を占めています。

先天性の遺伝性難聴の約７０％は、難聴のみを症状とする非症候群性難聴です。そのうち約８０％は常染色体劣性遺伝で、健聴の両親が同じ難聴の遺伝子の保因者であると、難聴児が生まれる確率は２５％となります。

【遺伝子検査】 難聴に関連する遺伝子は現在分かっているだけで１００種類前後あります。その遺伝子に変異があると難聴になったり、なりやすくなったりします。平成２４年度から日本人に多く見られる１３遺伝子４６変異について保険診療で遺伝子検査が受けられるようになりました。

【遺伝子診断を受けるメリット】 原因となっている難聴の遺伝子が分かることで、予後（聴力の変動、進行など）や合併症の推測、補聴器や人工内耳の装用効果の予測、難聴の予防など、診療計画の立案に役立ちます。

【遺伝カウンセリング】 遺伝子検査は通常の臨床検査とは異なり、家族に関わることなので、結果は遺伝カウンセリングと共に伝えることが重要です。原因、難聴の特徴と経過、合併症の予防と対応、補聴効果、次子の再発の可能性、保因者などについて説明、相談を行います。





元小学校ことばの教室担当

宮本 紀子

☆失敗・反省☆

前は、構音障害の子にふれて、育ちや心の問題の解決を図り、構音障害が改善した事例を書かせていただきました。しかし、たくさんの事例を思い返すと、うまく改善できた事例だけでなく、指導の始まりにも行きつかなかった事例もありました。

経験の浅いころ、5年目ぐらいだったと思います。初回面談で吃音について「一般的に吃音はよくなるかどうか何ともいえない。よくなることを目指して取り組むが、吃音はなおらないこともある。」と書籍に書いてある通りに説明しました。まだ実際の子どもに接した時間がわずかで、状態の正しい評価も詰めていないのに、改善できない時のことを想起して防衛していたのだと思います。母親の性格や理解力などよく知らないうちに話したので、「それなら通わない」と通級を蹴られてしまいました。親は子どもが滑らかせるように話せるように願い、そのために時間をさいて通うのだから…との思いを受け入れて対応すべきだった、説明不足となっても‘なおらない’というひとは要らなかったと反省しました。のちのち母親がことばの教室の指導状況を把握できた頃、母親が理解できることばで話すべきだったのです。話すタイミングや相手の性格、理解力を確かめてから話した方が正しく伝えることができたのではないかという苦い思い出です。

☆人間力を鍛える努力をする☆

小学校低学年を担当する先生は、親との付き合い方として‘何事も受け止める’という態度で接するように努めます。その中でもことばの教室を担当することは、人間としての自分が鍛えられるものでした。ことばの教室では、普通学級の担任よりも親に近い立場で子どもの発達成長を親と共有することになります。子どもの問題を解決するためには指導技能だけではなく、親との濃い結びつきを作っていくのがよいと思います。

そして飾らない人間として付き合っていくことが大事だと考えて努力していました。飾らないというのは…/裏表のない/うわべだけを取り繕うことのない/見下すことをしない/…というようなことです。友人として付き合うときに好きなタイプを頭に思い描いて努力しました。また、「ごめんなさい」と言う謙虚さも大事だと思いました。そんな努力のうちに十分ではないにしても身に付いて、退職後の現在の生活でもさまざまな人間関係の中で生かしていると実感しています。

☆子どもの練習意欲を高める☆

子どもがやる気を起こすのはどんなときか？子どもにとって少し難しいと思える課題に取り組んでいるときだと思います。少しというのが大事で、子どもは難しい手ごわい課題には手が出ません。少しがんばればできることを重ねていくことが意欲に結びつくと思います。「ここまでできた！この次もがんばろう！」というのが意欲なので、始めに挫折させてしまわないように気をつけて課題を出します。

また、課題内容についても、なぜその訓練をするのか理解して取り組めば意欲的になると思います。幼児のときは遊びのような口腔機能訓練でも遊びの一つとして面白がって取り組めますが、小学生にはその訓練が何にどのような効果があるか説明するとしっかり取り組みます。

同じように、構音障害で通う子にはどの音を練習していくのか誤り音をノートの1ページ目に一覧にして目標となるように記入します。機能訓練だけの段階から音出しの段階に入って1音でも習得できると、1ページ目に戻って誤り音一覧に正音になったというチェックします。これが次の意欲になります。

子どもは面白いことだけが楽しいのではなくて、充実した時間が過ごせたことで楽しいと感じます。努力の末に正しい音が習得できたとき「たのしい！」となります。

できたときにははっきりと評価することも大事です。舌の動きや息の出し方など一つ一つ瞬時に褒めていくと評価が子どもに伝わりやすいと思います。褒める声の高さや柔らかさ、顔の表情なども大事です。にこにこ笑顔は必要ですが真剣に見守る顔も子どもの心を揺さぶるものです。

☆親もいっしょに学習する☆

千葉県の小学校では、自校の子だけでなく近隣の他校からことばの教室に通級しています。他校通級は親の送迎が不可欠で、1週間に1回通級することが親にとって大きな負担です。ところが指導側としてはこれがとても都合がいいのです。親もいっしょに教室に入って様子を見てもらいます。親がそばにいと親に同意を求める視線を送って自信のない態度をとる子がいたり、気が散りやすい子がいたりするのですが、そのときは親に別室で待っててもらいます。

同席していると子どものことばの状態を親もしっかり把握できるようになります。「家でもさかさまことばで遊んでみました」と家で遊びとして復習してくれることもあります。発音が正しくなったその瞬間に親が立ち会うことができ感激していたこともありました。

また、効果を上げるためにも親の協力が必要なのでいろいろとおぼえてもらいます。口腔機能訓練のやり方を正しく見て、細かい動きまでおぼえてもらいます。音節が出せるようになったら、誤音と正音の違いを聞き分けるようにしてもらいます。これらは段階に応じた5～6分の家庭学習が正しい方法でされているか親に確認してもらうためです。「それは先生がやっていたのとは違うよ」「いい音で言えたね」と声掛けしてもらえれば効果が高まります。子どもも親が見守ってくれていると感じることで気持ちたちが充実するのではないかと思います。

ことばの教室を担当したばかりの頃は、自分の指導に自信がないため親を教室の中に入れることに抵抗がありましたが、3人の先輩の先生方がそれぞれに‘子どもの才能を伸ばす同志’という雰囲気を親と作っていたので、私も見習って同じようにしてきました。

☆ことばのノート☆

=子ども=親=学級担任=ことばの教室=をつなぐものとしてノートがあります。学習と同時進行で学習内容をノートに記入し評価を入れます。学級担任はことばの教室に通級させている子がどのような学習をしているのか知らなければならないので、ノートに目を通し学習内容を確認します。他校通級の場合、学級担任との連携が薄くなりがちなのでノートがとても大事です。自校通級では親の付き添いがないので、親に知らせるためにも他校通級の子よりさらに詳しく記入して報告します。

☆親たちの会があります☆

現在「千葉県ことばを育てる会」の役員として奉仕しています。親たちの横のつながりの会なので、子どもの育て方、障害の受容など個々の悩みをみんなで話し合うほか、講演会や療育キャンプなどの事業を開催し、要望書をまとめて千葉県教育委員会へ提出しています。

◇ 各委員会・作業部会から ◇

◎◎◎リハビリテーション公開講座実行委員会◎◎◎

「第8回リハビリテーション公開講座」を開催!!

平成26年11月22日(土)、爽やかな秋風の中、八千代市にある勝田台文化センターで、第8回リハビリテーション公開講座が開催されました。

本講座は一般市民を対象に、リハビリテーションの啓発を目的として、平成19年度より千葉県理学療法士会、千葉県作業療法士会、千葉県言語聴覚士会、千葉県リハ医学懇話会の共催で毎年開催しています。今年度の開催地である八千代市は人口約19万人、首都圏へのベッドタウンとして位置しており、働く世代が多い一方で、高齢化率の高い村上団地や米本団地を有しています。今回



会場となった勝田台文化センターは、京成本線と東葉高速鉄道が通る勝田台駅から徒歩5分のところにあります。当日は近隣に住む一般市民の高齢者を中心に115名の方が会場まで足を運んで下さり、大変な盛り上がりとなりました。

今回は、「見て知って、感じて学ぶ健康講座 ～長生きいきいき！歩く・食べる・楽しむ～」と題し、実際に身体を動かして介護予防を体験していただくことを目的としました。講座は2部構成となっており、第1部では千葉リハビリテーションセンターの吉永勝訓先生により『医師が伝えたい！健康寿命の秘けつ!!』と題した講演が行われました。続いて第2部ではPT・OT・STごとにブースを設けて、各職種の専門性をいかした体験講習が行われました。ST士会は岩本明子実行委員により『摂食嚥下リハビリ(実践編)』というテーマで行いました。参加された55名の一般市民の方々は5～6人ごとの机にわかれて座り、それぞれに補助としてボランティアで参加したSTが1人付く形となりました。体験講習では、講義形式で摂食嚥下のメカニズムとリハビリテーションの基礎知識を伝え、続いて実際に姿勢を変えての食事摂取やリハビリテーションの評価、手技などをSTの指導のもとに参加者同士で行っていただきました。健康に日々生活をされている方にとってはあまり馴染みの無いテーマと思われましたが、参加された方々は非常に真剣に耳を傾けて下さいました。また、実技に入ると、水を飲み込む際にのど仏が上下することを実際に触れて確認し「お～」と感嘆の声を上げたり、納得できるまで自主的に何度も繰り返し行ってみたりと意欲的に摂食嚥下の仕組みを理解しようとされている方が多くおられました。講習終了後には参加された皆様が、本会の賛助会員である三和化学株式会社や川本産業が提供して下さったトロミ剤や嚥下食のサンプル、口腔ケアグッズを手にとっておられました。

今回、月に1度実施された実行委員会の会議には、八千代市の職員であるPTの方も1名実行委員として参加されていました。行政の立場から、「病院とは異なるものの地域住民の健康に寄与する事を目的に働いている」という話を聞き、今回の様にリハビリテーションの技術や関連する知識を伝えていく事が、地域住民の健康のためになることや、“治す”だけではなく、“予防”の為に出来ることの大切さを考える場になりました。今回の公開講座という取り組みであれば、難解な嚥下の知識を広く、分かりや

すく伝える事ができ、更に嚥下に対して意識の高い人が増えることで、嚥下障害の早期発見や予防に繋がりがやすい環境を整えることが出来ます。今後も、様々な角度から言語聴覚士として出来ることを考え、実行して行きたいと思います。

(新八千代病院 倉田 大地)

◎◎◎聴覚障害委員会◎◎◎

勉強会報告『最近の補聴器事情—補聴器ってどんなもの?—』

平成26年10月19日、千葉市療育センターにおいて、聴覚障害委員会主催の勉強会を実施致しました。参加人数は14名でした。主な内容は以下のとおりです。

1. 『補聴器の適応と装用指導』

千葉大学医学部附属病院 耳鼻咽喉科 常田 千佳

補聴器の適応について、伝音性難聴と感音性難聴、語音明瞭度、聴力程度による違いに分けてお話ししました。伝音性難聴は比較的補聴効果が大きく、感音性難聴では装用指導に加えて聴能訓練が必要となります。語音明瞭度が良いほど、補聴器の効果は大きくなります。小児では、難聴の程度に関わらず、補聴器装用は原則両耳必要であり、重度難聴では人工内耳の適応も検討します。成人でも両耳装用が理想ですが、経済的問題、操作性の問題から片耳装用となることもあります。小児、成人とも補聴器の装用には指導が重要です。

2. 『補聴器の機能とメンテナンス』

日本補聴器センター 荻洲 えりも

周波数による増幅率の変更、最大出力音圧の設定、騒音抑制、指向性、ハウリング抑制等の補聴器の機能について具体的なお話をしました。さらに、最近のトレンドとして、防水防塵機能、マイクから補聴器に音を飛ばす機能(FMシステム、ロジャー)、両耳通信機能、データログ、スマートホンを利用した補聴器の調整等についても話題として取り上げました。補聴器の防水機能はかなり良くなっていますが、完全な防水ではないため、機器内部の結露や汗などへの対策は必要であることもお伝えしました。

3. 演習『補聴器のフィッティングと試聴』

千葉市療育センター 高橋 典子

パソコン上で各メーカーのフィッティングソフトを使い、実際どのように補聴器を調整していくのかを実演しました。そして、①利得を上げていくとどのように聞こえ方が変わるのか ②周波数圧縮機能を使用した時と、使用しない時でどのように聞こえ方が変化するかを受講者に聞いてもらいました。また、受講生が二人一組となり、FM電波を使って音声を補聴器に届けるFMシステムも体験してもらいました。小型の受信機を補聴器に取り付け、話し手がマイクを使用することで、話し手がどこに移動してもよく聞こえることを実感して頂きました。

4. 勉強会アンケート結果

小張総合病院 大壺 歩実

アンケートの回答は、以下の通りです。

① 研修内容は、よく理解できた[9名] だいたい理解できた[2名] 難しかった[0名] 未記入[1名]。 ②研修内容は、期待通り[5名] だいたい期待通り[7名] 期待外れ[0名]。 ③今後の研修会で希望する内容は、人工内耳、聴覚障害児の療育、聴覚障害者のリハビリテーションなど。

◎◎◎生涯学習プログラム作業部会◎◎◎

平成26年度 生涯学習プログラム基礎講座・専門講座千葉県版を実施

今年度の講座は、平成26年11月16日・23日に千葉市民会館で行われました。

基礎講座は日本言語聴覚士協会が設定した6講座と当県士会が独自で企画した1講座(「言語聴覚士に求められる資質とは」小嶋 知幸先生)の合わせて7講座、専門講座は1講座(「失語症以外の高次脳機能障害 ver. 2」総合南東北病院 神経心理学研究部門の佐藤 睦子先生)の講義でした。なお、今年度も基礎講座の講師は千葉県内で活躍している言語聴覚士の方々に担当していただきました。



佐藤先生の講義風景

佐藤先生の講義は、認知症などSTが今後も対応す

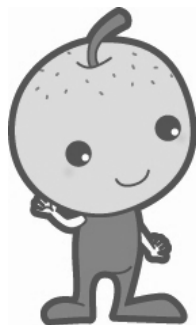
べき高次脳機能障害について、症例を交えながら詳しく解説していただきました。

例年基礎講座の受講希望者が多いため、今年度は定員を40名に増やしましたが、満員に迫る受講生が熱心に聴講していました。まだ経験の浅い言語聴覚士の皆様が、臨床の基礎的な知識や心構えを学ぶ場としては最適な研修会です。

参加者は延べ人数298名(基礎講座250名、専門講座48名)で、5割は県外からの参加の方々でした。北は北海道・釧路から南は九州・福岡と日本各地から受講生が集まりました。

来年度は平成27年12月6日(日)、20日(日)に基礎講座・専門講座を実施することが決定しています。なお、会場は交通の利便性の良い千葉市文化センターとなります。また、認定言語聴覚士の受講資格(専門講座終了者)にも関わっております。是非、皆様の参加をお待ちしています。

(齊藤 公人)



◇ 事務局から ◇ 年会費納入のお願い

* 当会の年会費は前納制となっております。

正会員	3500円	準会員	3000円
賛助会員	1口5000円（個人1口以上、団体2口以上でお願いします）		

* お支払期限は以下のとおりです。

平成27年度分：平成27年3月31日

平成26年度分：平成26年3月31日（未納者73名）

平成25年度分：平成25年3月31日（未納者28名）

* 同封の払込取扱票をご利用ください。

未納分について

* 本年度は未納ゼロをめざします。平成25年度分・平成26年度分の年会費のお支払いがお済みでない場合、期日を過ぎておりますので、2年分を合計した金額にてお早めにお支払いください。

本会の規則により、2年以上会費未納の場合は退会とみなされますのでご注意ください。

なお、退会後も未納分は徴収させていただきます。（例：正会員の場合：3500円×2＝7000円）

◇◇お支払い方法◇◇

1) ゆうちょ銀行および他の金融機関からのお振込み

◇ ゆうちょ銀行からのお振込の場合

払込取扱票に氏名、住所、金額をご記入の上で下記宛にお振込ください

（記号番号）00120-6-39932

（加入者名）一般社団法人千葉県言語聴覚士会

◇ ゆうちょ銀行以外の金融機関からのお振込の場合

（銀行名）ゆうちょ銀行（金融機関コード）9900（店番）019

（店名）〇一九（ゼロイチキュー店）

（預金種目）当座（口座番号）0039932

（受取人名）イッパンシャダンハウジン チバケンゲンゴチョウカクシカイ

2) ゆうちょ銀行口座からの自動引落とし

お手続きについては、当会ホームページをご覧ください。

尚、今お手続きをされた場合、平成27年3月1日より自動引落としが開始されます。

自動引落日の変更について

＊ゆうちょ銀行口座の自動引落しをご利用の方へ：今回（平成27年3月）より引落日が変わりました。

（旧）3月15日 → （新）3月1日

《年会費に関するお問合せ先》

船橋二和病院 リハビリテーション科 鈴木 直哉 047-448-7111（代）

1. 入会のお誘い

当会に入会されていない方は、ぜひご入会くださるようお願い申し上げます。入会ご希望の方は、ホームページにても入会方法をご案内申し上げておりますのでご覧ください。また、お近くに未入会の言語聴覚士の方がいらしたら、入会をお勧めくださいますようお願い申し上げます。

2. 迷子が増えています ～ 変更届についてのお願い ～

最近、迷子になって戻ってくる発送物が増えています。お手数ですが、氏名、住所や勤務先などに変更があるときは、速やかにご連絡くださいますようお願いいたします。変更届の様式は会のホームページよりダウンロードすることができます。ご記入の上、事務所へ郵送やFAXにてお届けください。また、変更届に限ってメールによる受付をしております。会からの情報がみなさまのお手元に無事届きますよう、ご協力お願いいたします。

3. 新入会員のお知らせ（敬称略）会員数：正会員371名・準会員24名・賛助会員：7団体

（平成27年2月15日 理事会承認分まで）

・・・正会員・・・

宮内 あずさ（四街道市役所）

日下 志乃（小張総合病院）

以上



◇ 理事会・委員会等議事録 ◇

◆ 平成26年度 理事会

《第8回》日時：2014年11月24日（月）13時00分～17時00分 場所：黒砂公民館 会議室

出席者：吉田、岩本、木村、古川、宮下、鈴木（理事6名）、鈴木（書記）

1. 協議事項：・各部・各局の議事録の承認について ・新入会員・退会者について ・代議員選挙について・No.46 県士会ニュースについて ・理事選挙について ・選挙に関する規則、選挙管理委員会内規について ・医療保険に関するアンケート調査について ・生涯学習プログラムの基礎講座講師養成研修会について ・地域リハ協議会からの依頼について ・認知症専門職研修について ・高次脳機能障害委員会特別講座のアンケートについて ・財務の進捗状況について ・言語聴覚士がいる介護老人保健施設一覧について ・郵便物回覧

2. 報告事項：・県士会協議会報告について ・第1回、第2回生涯学習プログラム作業部会報告

《第9回》日時：2014年12月21日（日）13時00分～15時00分 場所：黒砂公民館 会議室

出席者：吉田、岩本、木村、酒井、鈴木、古川、宮下、渡邊（理事8名）山本（監事）、宮下（書記）

1. 協議事項：・各部・各局の議事録の承認について ・新入会員・退会者について ・代議員選挙について ・理事選挙について ・船橋在宅医療ひまわりネットワークの委員推薦について ・外来摂食嚥下訓練施設一覧改訂について ・出納簿について ・第4回総会について ・会のPC活用について ・千葉県地域リハビリテーション協議会

2. 報告事項：・東京医薬専門学校学校長代行について ・郵便物回覧

《第10回》日時：2015年1月25日（日）13時00分～17時00分 場所：黒砂公民館 和室

出席者：吉田、岩本、酒井、宮下、渡邊（理事5名）、山本（監事）、今泉（書記）

1. 協議事項：・各部・各局の議事録の承認について ・新入会員・退会者について ・理事選挙について ・特別支援学校の外部専門家活用について ・ニュース No.47について ・ホームページについて ・学術局第1回研修案内状 ・摂食嚥下委員会研修会アンケートについて ・総会資料について

2. 報告事項：・メール便廃止への対応について ・郵便物回覧

《第11回》日時：2015年2月15日（日）13時00分～17時00分 場所：黒砂公民館 会議室

出席者：吉田、岩本、木村、酒井、古川、渡邊、鈴木（理事7名）、宇野（監事）、鈴木（書記）

1. 協議事項：・各部・各局の議事録の承認について ・新入会員・退会者について ・ニュースNo.47について ・総会資料について ・学術局第3回アンケート結果報告および全3回分のまとめ報告 ・学術局平成27年度第1回研修会案内状 ・変更届について ・人材バンクについて ・認知アプリ集について ・認知症専門職研修について ・平成27年度予算および財務について ・平成26年度介護老人保健施設を対象としたアンケート調査結果報告 ・地域リハビリテーション協議会の引き継ぎについて

2. 報告事項：・郵便物回覧

◆ 平成26年度 社会局職能部

《第2回》日時：2015年1月19日（月）17時15分～18時00分 場所：印西市保健福祉センター

出席者：鈴木、渡邊

今年度の活動報告、次年度活動計画案、今後の予定

◆ 平成26年度 学術局

《第4回》日時：2014年11月16日（日）10時00分～12時00分 場所：プラザ菜の花

出席者：柄澤、神作、木村佐、木村知、酒井、佐藤、竹中 欠席者：荒木

・平成26年度第3回研修会スケジュールと役割分担 ・今年度反省、次年度計画案についての検討 ・その他

《第5回》日時：2015年1月18日（日）17時00分～17時30分 場所：順天堂大学医学部附属浦安病院

出席者：柄澤、神作、木村佐、木村知、酒井、佐藤、竹中

・平成26年度第3回研修会反省 ・今年度反省、次年度計画案についての検討 ・資料集作成について ・平成27年度第1回研修会についての検討 ・その他

◆ 平成26年度 第8回リハビリテーション公開講座実行委員会

《第7回》日時：2014年11月12日（水）19時00分～21時00分 場所：千葉県理学療法士会事務所

出席者：岩本、神作、倉田 千葉県理学療法士会4名 千葉県作業療法士会3名

・当日スケジュール ・配布資料 ・準備機材 ・アンケート ・来年度について

《第8回》日時：2014年12月19日（金）19時00分～21時00分 場所：千葉県理学療法士会事務所

出席者：神作 千葉県理学療法士会5名 千葉県作業療法士会2名

・アンケート結果 ・反省 ・会計 ・来年度について

◆ 平成26年度 渉外部 船橋在宅医療ひまわりネットワーク

《人材育成委員会》日時：2014年11月5日（水）出席者：山本

《人材育成委員会》日時：2015年1月23日（金）出席者：山本

◆ 平成26年度 渉外部 生活期リハビリテーション合同研修実行委員会

《第8回》日時：2014年12月2日（火）出席者：小野、勝又、吉田

《第9回》日時：2015年1月27日（火）出席者：小野、勝又

◆ 平成26年度 渉外部 認知症専門職研修実行委員会

《第1回》日時：2014年 5月23日（金）出席者：治田、平山

《第2回》日時：2014年 6月19日（木）出席者：治田、鈴木

《第3回》日時：2014年 7月15日（火）出席者：鈴木

《第4回》日時：2014年 8月13日（水）出席者：治田、平山、鈴木

《第5回》日時：2014年 9月17日（水）出席者：治田、鈴木

《第6回》日時：2014年10月15日（水）出席者：治田、鈴木

《第7回》日時：2014年11月10日（月）出席者：平山、鈴木

《第8回》日時：2014年12月 4日（木）出席者：なし

《第9回》日時：2015年 1月23日（金）出席者：治田

◆ 平成26年度 小児言語障害委員会

《第4回》日時：2015年1月18日（日）11:00～12:00 場所：順天堂大学医学部附属浦安病院カンファレンスルーム 出席者：藤田、金子、戸田山、廣瀬、渡邊

第3回研修会「小児症例検討会」の打ち合わせ、今年度の反省、次年度活動計画案、今後の予定

◆ 平成26年度 摂食嚥下障害委員会

《第3回》日時：2015年1月11日（日）10時00分～11時30分 場所：順天堂大学医学部附属浦安病院

出席者：酒井、相楽、高橋、田中、長良、林

・嚥下外来実施施設一覧の改訂についての検討 ・次年度計画案についての検討 ・平成27年度第3回研修会についての検討 ・その他

◆ 平成26年度 聴覚障害委員会

《第5回》日時：2015年1月28日（水）19時30分～21時00分 場所：プラザ菜の花 サークル室

出席者：常田 高橋 黒谷 大壺 宮下

・研修会報告書について ・コラム原稿について ・平成26年度活動報告、決算について ・来年度の活動計画、予算について

◆ 平成26年度 介護保険委員会

《第2回》日時：2014年12月14日（日）10時00分～12時30分 場所：言語デイサービス ミカタ市川

出席者：木村佐知子（担当理事）、木村知希、小野、山崎、松本

・アンケート調査結果のまとめ ・今年度活動および次年度活動計画について等

《第3回》日時：2015年2月1日（日）10時00分～13時30分 場所：言語デイサービス ミカタ市川

出席者：木村佐知子（担当理事）、木村知希、小野、山崎、相川、松本

・アンケート調査報告書作成 ・次年度勉強会開催について等

◆ 平成26年度 高次脳機能障害委員会

《第1回》日時：2014年4月15日（火）19時00分～21時00分 場所：西船橋カフェ・カプリ

出席者：治田、竜崎、鈴木

・今年度の委員について ・平成26年度年度計画について

《第2回》日時：2014年5月7日（水）19時00分～21時00分 場所：ココス八千代店

出席者：治田、平山、鈴木

・失語症研修会について ・会場 ・受講者の参加資格 ・定員数

《第3回》日時：2014年7月8日（火）19時00分～21時00分 場所：西船橋カフェ・カプリ

出席者：竜崎、平山、鈴木

・委員の増員について ・失語症研修会について ・会場 ・運営スタッフ ・チラシ内容 ・申込方法

《第4回》日時：2014年8月31日（日）16時00分～19時00分 場所：幕張テクノガーデン

出席者：治田、竜崎、平山、秋野、松田、鈴木

・失語症研修会について 会場の予約と下見 ・研修会タイトル ・講義内容 ・資料の印刷

《第5回》日時：2014年9月21日（日）10時00分～12時00分 場所：八千代医療センター

出席者：治田、竜崎、平山、松田、鈴木

・失語症研修会について ・会場ルートマップ ・アンケート ・質疑応答の方法

《第6回》日時：2014年10月21日（火）18時30分～21時00分 場所：西船橋カフェ・カプリ

出席者：治田、平井、平山、竜崎、鈴木

・失語症研修会について ・申込状況 ・タイムスケジュール ・質疑応答の方法

（紙面の都合上、報告事項と協議事項はまとめて記載しています。）





新 発 売

とろみ調整食品
トロメリン[®]V

“ダマ”になりにくく使いやすい！

様々な液状食品に同じ使用量でほぼ同等のとろみがつきます。



-  **Point** 溶けやすく、ダマになりにくいので簡単にとろみをつけられます。
-  **Point** 少量で十分なとろみがつき、すみやかに安定します。
-  **Point** 様々な液状食品に、同じ使用量でほぼ同等のとろみがつきます。
-  **Point** 透明感のあるベタつきの少ないとろみがつき、食品の味を変えません。

●賞味期間／製造後2年間



販 売 者
株式会社 三和化学研究所
本社/名古屋市東区東外堀町35番地〒461-8631
TEL (052) 951-8130 FAX (052) 950-1861
●ホームページ <http://www.skk-net.com/>

失語症の
言語訓練に！

NEW

ActVoice® 2

19,440円

旧ActVoiceユーザー向け無償贈呈キャンペーン実施中！

詳細は
ホームページ参照



これまでのActVoice(アクトボイス)を全面的に見直し、使いやすさの向上、動作の安定化・高速化、低価格化を実現しました。短期間の利用に便利なレンタルも4月開始予定！

- 特長 1 失語症の自習訓練を考慮し簡単な機能にしました。
- 特長 2 パソコンでオリジナルカードが簡単に作成可能！
- 特長 3 ActCardすべてに対応はもちろん、絵カード2001にも対応！



↑ 詳しい説明は
こちらをクリック

言語訓練用絵カード ActCard® (ActVoice® 対応) (アクトカード)

失語症者への言語訓練を目的とした絵カードです。高齢者が日常会話でよく使用する語彙の訓練から、幼児・学童の言語訓練にも使用可能です。

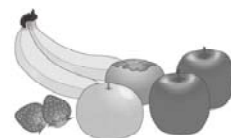
好評発売中
75mm×125mm
サイズ
各300枚

第1巻 名詞絵カード / 第2巻 名詞絵カード
第3巻 動詞絵カード / 第4巻 名詞絵カード

各 19,440円

文字版 1巻
(アクトカード第1巻に対応)

15,120円



ActCardシリーズ 今後の発売予定

ActCard 2コマ 第1巻
2コマの連続動作絵カード
です。文レベルの訓練にご
使用いただけます。

ActCard 2コマ
第1巻イメージ画像▶
横125mm×縦150mm 100枚
9,720円



ActCardイラストシート集 第1巻

ActCard第1巻のイラスト300種類をA4判1シートに10種類印刷してあります。また、イラストに対応する文字シートも付属します。購入者が訓練を目的として複写する事は自由です。失語症者に自習用として複写してお渡しください。付属のCD-ROMにはイラスト集のpdfデータが記録してあるので、パソコンとプリンタでシートを印刷する事も可能です。

A4判 60枚(イラスト30枚、文字30枚) CD-ROM付 8,640円



詳細につきましては決まり次第ホームページにてご案内します。



もの忘れが気になる方へ

新記憶サポート帳

著：安田 清 A4変形版 1,296円

毎日書くことで、困っていた予定のやり残しや、約束を忘れることが減ります。
「物忘れ外来」のリハビリを担当する言語聴覚士が、長年の臨床から開発しました。

3ヵ月分記入可能

構音(発音)指導のためのイラスト集

企画・監修：加藤 正子 竹下 圭子
B5判5冊セット 全232頁 7,776円

構音(発音)指導にすぐに役立ちます！

「キャリオバのための構音(発音)絵カード」がイラスト集になりました。短時間でより多くの単語を練習することができ、子どもが思わず呼称したくなるようなイラストを見ながら、構音指導を楽しく進めて頂けます。

目で見る構音障害

書籍+DVD 4,320円

著：藤原百合 (聖隷クリストファー大学 リハビリテーション学部言語聴覚学専攻 教授)
山本一郎 (山本歯科医院 矯正歯科クリニック 院長)

発行：EPG 研究会

既刊のDVD「目で見る日本語音の産生」では構音運動を内視鏡やエレクトロパラボラトグラフィを用いて視覚化し、今回はその続編として書籍とDVDを制作しました。視覚的な情報を通して「正常構音」と「特異な構音操作」について分かり易く解説しています。

自閉症の僕が跳びはねる理由 あるがままに自閉症です

著：東田 直樹 A5判 176頁 1,728円 電子書籍 (Kindle版) 1,120円
著：東田 直樹 四六判 128頁 1,080円 電子書籍 (Kindle版) 700円

NHK総合テレビにて東田直樹特集「君が僕の息子について教えてくれたこと」が放映されました。



株式会社 エスコアール

<http://escor.co.jp>

● 上記の商品はホームページから全品送料無料でお求めいただけます。● 価格は全て消費税込みです。

TEL 0438-30-3090 FAX 0438-30-3091
〒292-0825 千葉県木更津市畑沢 2-36-3

「健康な毎日」は **口腔ケア** から。

お口の中の「3つのケア」 **保湿** **清掃** **リハビリ** をトータルサポート

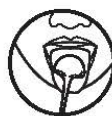


医療現場から生まれた口腔ケアシリーズ

保湿

清掃

リハビリ



シリーズ 口腔ケア製品ラインナップ



口腔ケアジェル



口腔ケアスポンジ



吸引菌ブラシ／吸引スポンジ



フレッシュメイトK



口腔ケア綿棒



口腔ケアガーゼ

川本産業株式会社

※製品改良のため、仕様の一部を予告なく変更することがあります。あらかじめご了承ください。

●お客様相談窓口 ☎06-6943-8956 (10:00～17:00 月～金ただし祝祭日を除く)
●商品に関するお問い合わせ・試供品のご要望は / マーケティング本部 ☎06-6943-8941
<http://www.kawamoto-sangyo.co.jp>



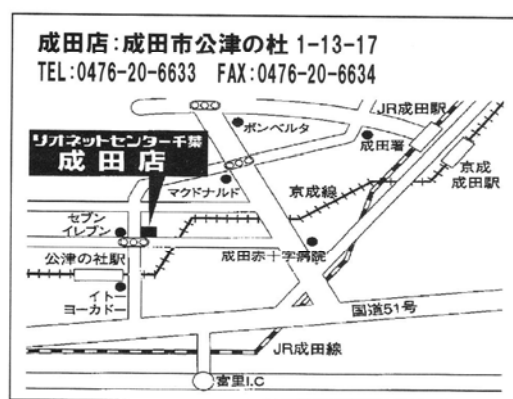
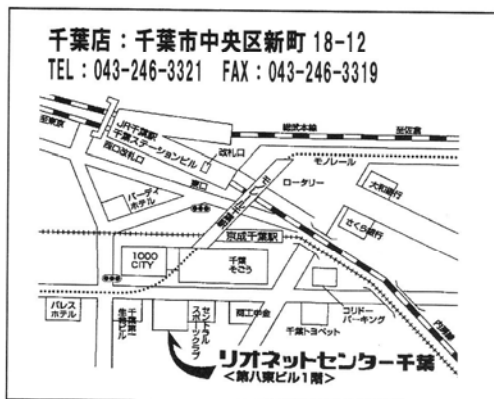
補聴器のご相談は安心できる

認定補聴器専門店で!!

認定補聴器専門店は「認定補聴器技能者」が在籍し、補聴器をお客様の耳に合わせるための設備機器が整い「補聴器の適正供給」の運用がされ「公益財団法人テクノエイド協会」が認定したお店です。つまり経験豊かで専門的な知識と技能を持ったスタッフが、様々な機器を使い、一人ひとりのお客様の聞こえの状態に合った最適な補聴器をご提供します。



リオネットセンター 千葉



発行所:一般社団法人 千葉県言語聴覚士会

発行人:吉田浩滋

編集人:編集部 古川大輔

事務局:〒263-0042 千葉市稲毛区黒砂2-6-15 メゾン K102

FAX 043-243-2524

E-mail chibakenshikai@zp.moo.jp

ホームページ:<http://chibakenshikai.moo.jp/> 会員専用パスワード:affordance

印刷:社会就労センター はばたき職業センター